

本町松下線築造工事に係る契約事務等に関する

調査結果を踏まえた 再発防止策

本町松下線築造工事に係る契約事務等に関する調査チーム

令和5年12月7日

再発防止策

☛ 適材適所な人員配置、工事監理業務の更なる活用

☛ プロジェクトマネジメントの徹底

☛ 設計変更のルール化

☛ 職員のスキルアップ・技術力強化

適材適所な人員配置、工事監理業務の更なる活用

- 必要な業務量の把握と適切な体制整備
 - ・事業量に応じた人員の配置
(工事は、監督員・主任監督員・総括監督員(課長)の3名体制)
 - ・大規模工事等の経験を有する人材の確保
 - ・難易度の高い工事が発生した場合など、必要に応じて他部からの兼務も含め、柔軟・迅速に人員を配置

- 工事監理業務の更なる活用
 - ・工期の管理
 - ・事業者や関係機関との協議資料の作成
 - ・設計変更(図面・数量)の精査等

今後、一定規模の工事については、工事監理業務で管理

■ プロジェクトマネジメントとは

- ☛ プロジェクトをどのように進めれば成功するのか、職員が詳しく計画を立て管理すること。
- ☛ 具体的には「いつまでに、どの段階まで」実施するかを明確にし、そこから逆算して成功までのプロセスを構築
- ☛ 目標達成に必要な計画やタスクを検討し、メンバー一人ひとりの役割分担を明確化
- ☛ プロジェクトリスクを把握・評価、情報共有し、適切な対策を実行

プロジェクトマネジメントにおけるチェック機能

■ 一般的な工事(例)



項目	事業評価	設計審査会	確認事項のルール化	三者合同会議
時期	予算要求時	設計段階の要所に	執行伺いの際に	工事着手時
内容	① 事業目的 ② 事業効果 ③ 概算費用 ④ 法令 は適当かの確認	①設計 ②施工方法 ③関係機関協議 ④地元協議 の妥当性を確認	①設計積算、仕様書 ②関係機関協議 ③地元協議 ④設計変更リスク をチェック	設計者、施工者、発注者が一同に会し、設計思想、関係機関・地元協議状況を共有

技術検討会議

大幅な設計変更や工期延期が見込まれる場合 等

環境下水道部と都市整備部が一丸となり課題解決に向けて議論

プロジェクトマネジメントの効果

リスクアセスメント

地域トラブル

地中障害

アスベスト

設計ミス

工事事故

予算管理

十分に調整・調査を実施
書面化して記録に残す

+

入札不調
物価高騰
材料調達困難
倒産

コミュニケーション計画

定例会議の開催(1~2週間に1回)による組織内の情報共有

管理職員(部長等)による定期的な現場視察

設計変更等のルール化

■ 変更協議書による変更の担保

- ▣ 設計図書と現場の条件が異なる場合には、設計変更が必要であるが、都度、契約変更を行うことは事務が煩雑になりかねない。
- ▣ そこで、変更協議書により設計変更を担保
- ▣ ただし、変更協議書で担保できるもののルール化が必要

今後庁内に検討チームを立ち上げ、設計変更等のルールを策定する

具体的には、設計変更における手続きの明確化を始め、設計変更の協議内容について、事前審査を行う組織の設置や、決裁等におけるチェック機能の強化を検討する。

会計事務研修の実施

- 予算に関する研修（令和5年度実施）
- 契約に関する研修〈工事請負契約約款含む〉（令和5年度実施）

技術力強化

【 研 修 】

- 本事案を踏まえた事例研修（令和5年度実施）
- 民間事業者との連携

【 OJT 】

- 管理職員(部長等)による定期的な現場視察(工事担当者同席)
- OJTによる技術の習得

【 外部人材の活用 】

- 工事監理業務の更なる活用
- 工事検査業務の外部委託による技術力の向上